

# 「障がい者文化芸術活動等に関する県民意識調査」調査結果

(令和7年度)

## 1 調査目的

令和10年度に全国障害者芸術・文化祭の愛媛県での開催が決定し、障がい者芸術文化活動の推進に取り組んでおり、本調査を通じて県民の意識調査を行うことで、今後の障がい者芸術文化活動政策検討に活用する。

## 2 調査方法等

- (1) 調査地域 愛媛県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女
- (3) 回答者数 400人
- (4) 調査方法 インターネットを利用したアンケート調査
- (5) 調査時期 令和7年7月29日～8月7日

## 3 概要

○文化芸術活動に関心のある障がいのある方や支援者をサポートするために、活動の場を広げたり、発表や発信のお手伝いをしたり、障がい者アートを起点にした経済活動に発展させたりできるような仕組みづくりを行っている「愛媛県障がい者アートサポートセンター」を「知っている」と回答した人は13.3%であった一方、「知らない」と回答した人は86.8%であった。

○障がい者アートに対して「非常に関心がある」と回答した人は3.8%であり、「まあまあ関心がある」と回答した人は35.0%であった一方、「あまり関心がない」「全く関心がない」「わからない」と回答した人は、半数以上の61.4%であった。

○障がい者アートに対して「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した方の関心が無い理由について、49.2%が「作品を見る機会がない」ため、33.2%が「知識や情報が少ない」ため、29.9%が「興味が湧かない」ため、10.2%が「理解や共感が難しいと感じる」ためと回答した。その他に、「障がいの有無に関わらずアートに関心がない」という回答も数件あった。

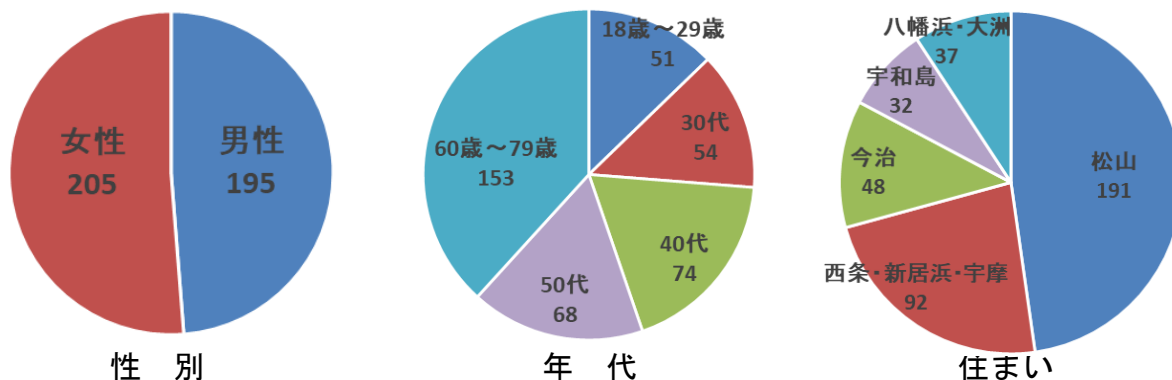
○障がい者アートが様々な人に認知され、興味を持ってもらうために必要な広報ツールについて、34.0%が「SNSや動画配信での紹介」、27.8%が「実物の展覧会やギャラリー巡り」、17.5%が「企業の商品へのデザイン等の採用」、12.5%が「オンライン展示やバーチャルツアー」、11.8%が「ワークショップや体験型イベント」、8.5%が「パフォーマンスやライブイベント」、8.0%が「書籍や雑誌での紹介」、7.3%が「障がい者アーティストと直接接する機会」、4.8%が「著名な芸術家の招へい」と回答した一方、22.3%が「特にない・分からない」と回答した。

- 障がいのあるアーティストによるアート作品（障がい者アート）に、「触れたことがある」と回答した人は 29.5%であった一方、「触れたことがない」と回答した人は 70.3%であった。
- 障がい者アートに「触れたことがある」と回答した人のうち、その種類について、92.4%が「絵画・イラスト」、16.9%が「音楽・演奏」、13.6%が「彫刻・立体作品」、7.6%が「パフォーマンス（ダンス、演劇等）」、3.4%が「デジタルアート・映像作品」であった。
- 障がい者アートに「触れたことがある」と回答した人のうち、そのきっかけについて、52.5%が「展覧会やギャラリー」、32.2%が「テレビやインターネットの情報」、26.3%が「地域のイベントやフェスティバル」、11.9%が「友人や家族の紹介」、11.0%が「学校の授業や教材」、1.7%が「商品のラベル等に起用されていた」であった。その他、「旅行先のショップ」や「病院の待合室に飾られていた」等の意見があった。
- 障がい者アートに「触れたことがある」と回答した人のうち、触れたことで、51.7%が「感動した」、42.4%が「新しい発見があった」、14.4%が「自分も何か関わってみたいと思った」一方で、9.3%が「難しさや理解のしにくさを感じた」という回答があり、9.3%が「特になにも感じなかった」という回答であった。その他、「才能を持っていて羨ましい」と感じたという意見もあったが、「障がいを全面に出すアートには正当な評価がない」という意見もあった。
- 障がい者アートに「触れたことがある」と回答した人のうち、73.7%が「もっと触れてみたいと思った」と回答し、21.2%が「もっと触れてみたいと思わなかった」と回答した。
- 障がい者アートに「もっと触れてみたいと思った」理由として、「才能や可能性を感じた」という意見や、「構図や色使いが新鮮で新しい発見がある」という意見等があった。
- 障がい者アートに「もっと触れてみたいと思った」と回答した人が、興味を持ちやすくなる内容や工夫について、82.8%が「実物の作品を間近で見られる展示会」、35.6%が「作品の制作過程をみられるワークショップ」、33.3%が「アーティストと交流できるイベント」や「SNSや動画で作品や制作風景を見られるコンテンツ」、25.3%が「作品に関する解説やストーリーがわかりやすい資料」、24.1%が「チラシやポスター」であった。その他、「テレビのCM」という意見もあった。
- 障がい者アートに関する情報の取得方法について、34.5%が「インターネットの専門サイトやSNS」、29.5%が「自治体の広報・ホームページ」、25.0%が「地域のイベントやフェスティバル」、20.5%が「チラシやポスター」、9.8%が「図書館や書

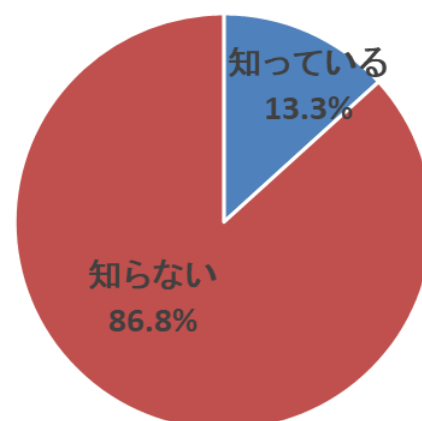
店の書籍・雑誌」、9.3%が「学校や教育機関の教材・資料」と回答した一方、28.0%が「特になし・分からない」と回答した。その他「テレビ」「新聞」「ポッドキャスト」という回答があった。

#### 4 調査結果

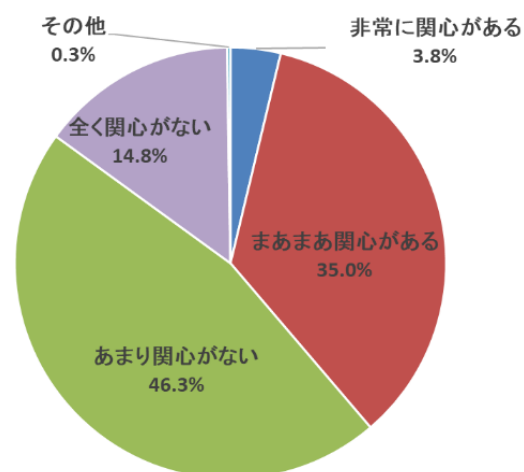
##### (1) 回答者について



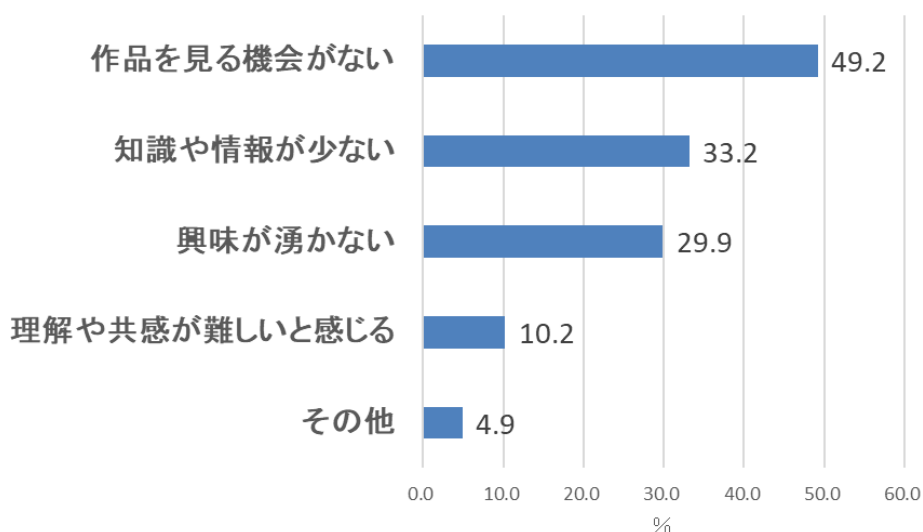
(2) 文化芸術活動に関心のある障がいのある方や支援者をサポートするために、活動の場を広げたり、発表や発信のお手伝いをしたり、障がい者アートを起点にした経済活動に発展させたりできるような仕組みづくりを行っている「愛媛県障がい者アートサポートセンター」を知っていますか。



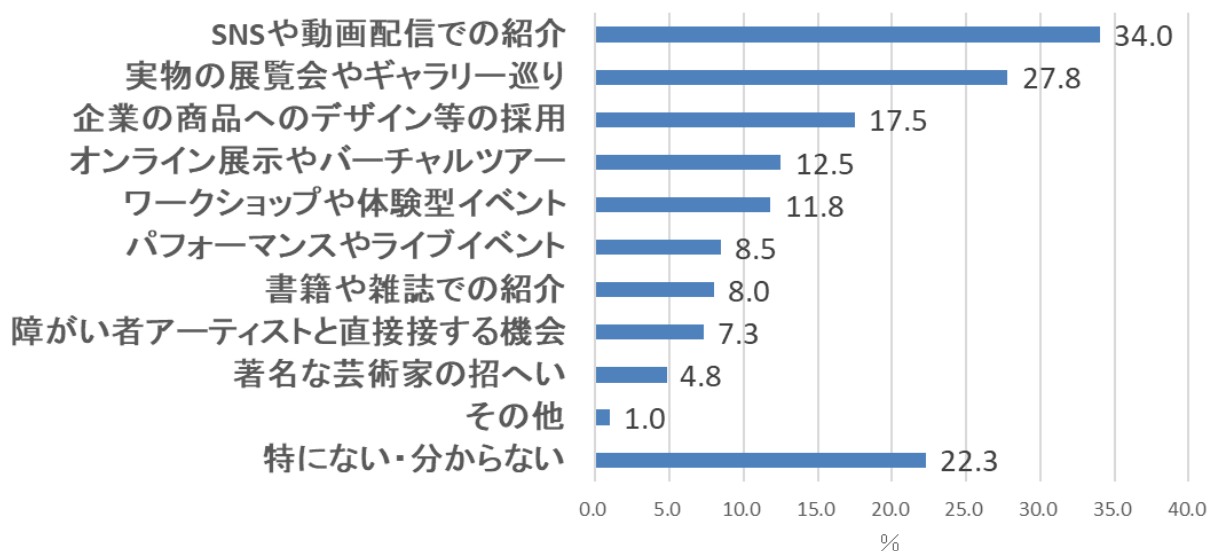
(3) 障がい者アートに対してどの程度関心がありますか。



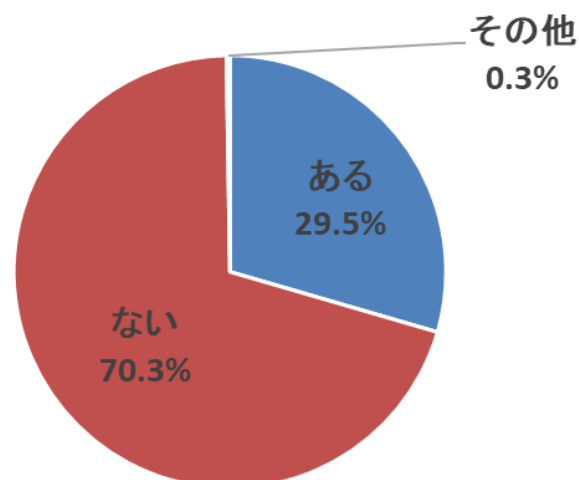
(4) (3)で「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した方に伺います。障がい者アートに関心がない理由を教えてください。



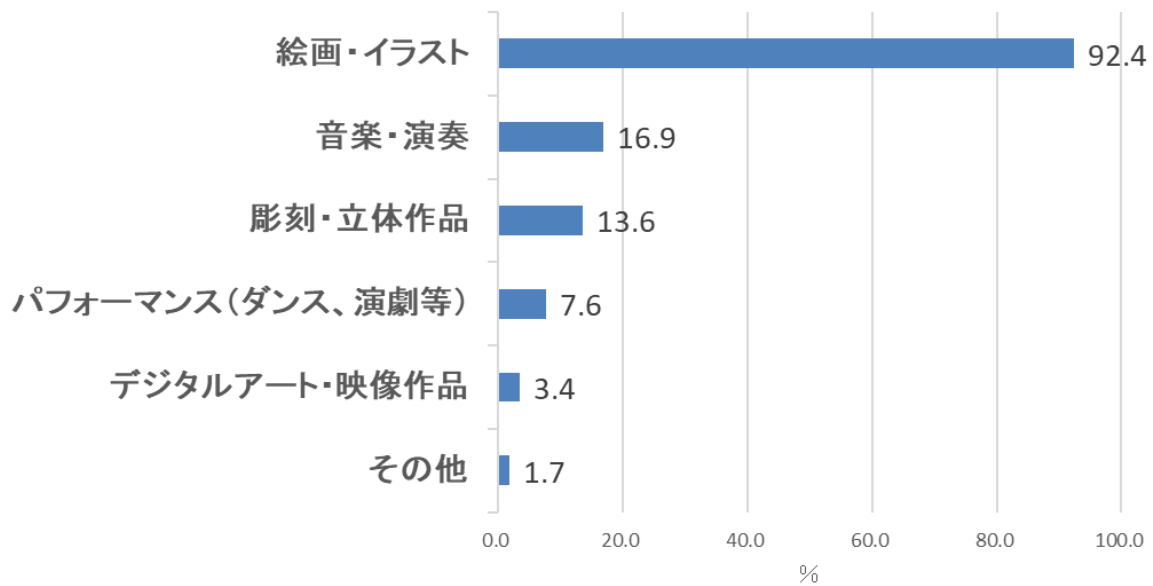
(5) 障がい者アートが様々な人に認知され、興味を持ってもらうためには、どのような広報ツールを用いれば良いと思いますか。



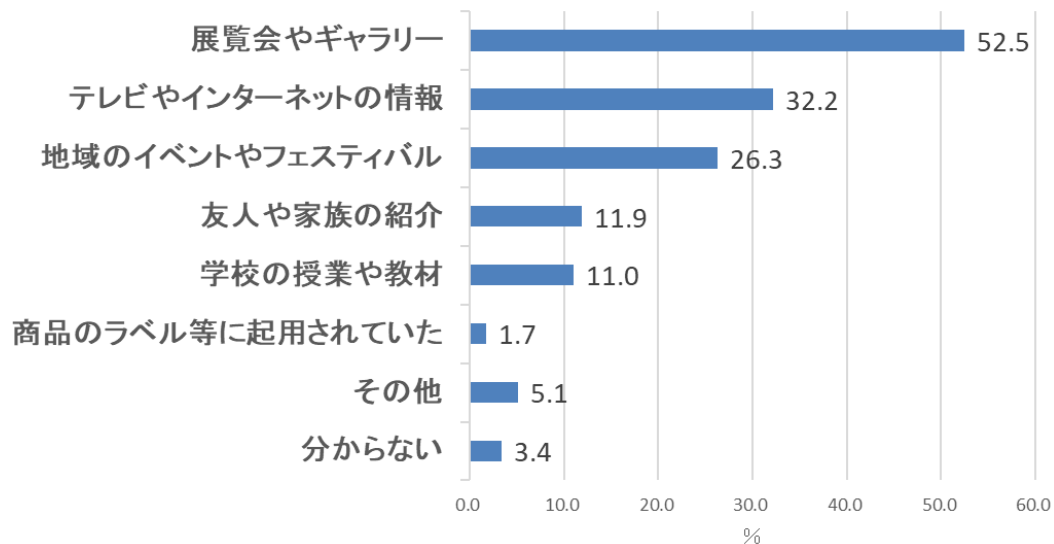
(6) あなたは、障がいのあるアーティストによるアート作品（以下、障がい者アートという。）に触れたことがありますか。



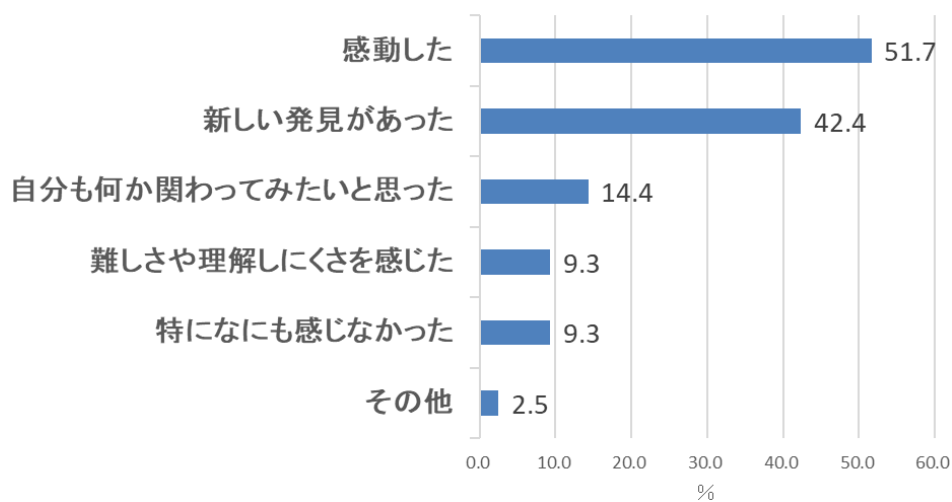
(7) (6)で「ある」と回答した方に伺います。どのような障がい者アートに触れたことがありますか。



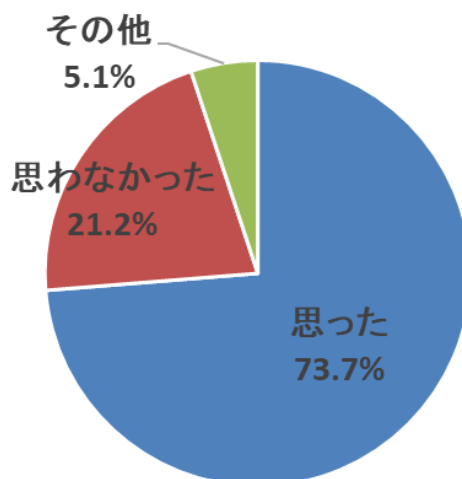
(8) (6)で「ある」と回答した方に伺います。障がい者アートに触れるきっかけは何でしたか。



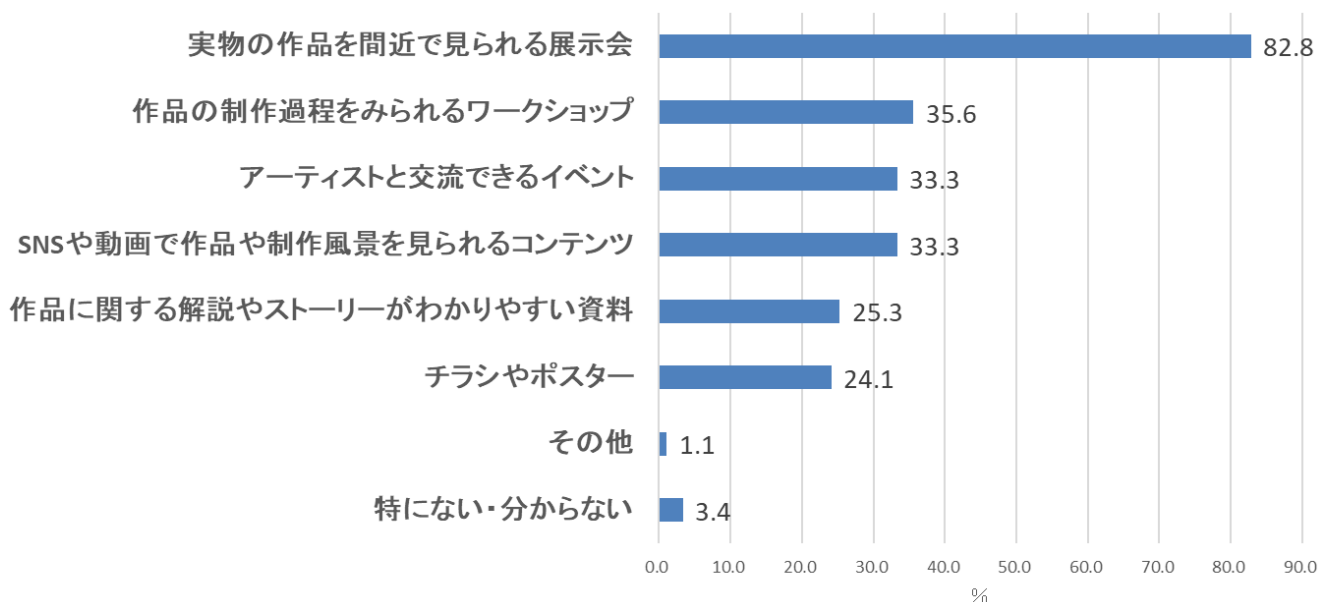
(9) (6)で「ある」と回答した方に伺います。障がい者アートに触れたことで、どのように感じましたか。



(10) (6)で「ある」と回答した方に伺います。  
障がい者アートに触れたことで、もっと触れて  
みたいと思いましたか。



(11) (10)で「思った」と回答した方に伺います。  
どのような内容や工夫があれば興味を持ちやすくなりますか。



(12) あなたは、障がい者アートに関する情報をどこで得たいですか。

